

34. 九州支部での自然災害伝承碑の活動報告



Report on the activities of the Kyushu Branch on Natural Disaster Monument

1. はじめに

○梅崎基考 (アバンス)

九州災害碑WG (九州支部)

「九州災害碑ワーキンググループ (WG)」

を2021(令和3)年6月に立上げた。

▼ 九州災害碑WGメンバー 計16名+1団体

WGの活動内容は、

- 1) 自然災害伝承碑に関わる情報収集と現地調査,
- 2) 災害碑調査票の作成 である。

右表に示す九州災害碑WGのメンバーで活動してきたが、本年度 (2024(令和6)年度) を持って第1期の活動を完了する予定である。

本論では、WGのこれまでの活動報告とその活動成果の一部として、**九州における災害碑の特徴を紹介**する。

担当県	氏名	所属
福岡	矢野 健二	ジオテック技術士事務所
	新谷 俊一	大日本ダイヤコンサルタント
	徳田 充樹	新地研工業
	井柳 卓也	西日本技術開発
長崎	矢田 純	カミナガ
	山田好之助	藤永地建
	中司 龍明	長崎地研
熊本	梅崎 基考	アバンス
	松崎 達二	サンコーコンサルタント
大分	池見 洋明	日本文理大学工学部建築学科
	池見研究室	日本文理大学工学部建築学科
宮崎	黒木 久達	ジオセンターエム
	落合 文登	晃和コンサルタント
	猪倉 和馬	モール地研
	田所 明	ジオセンターエム
鹿児島	宇都 忠和	アーステクノ
	米森 義弘	日本ジオテック

2. 九州災害碑WGの活動報告

これまでの主な活動を以下に示す。

- 2021年6月：九州災害碑WG 発足
- 2022年10月13～14日：令和4年研究発表会（大阪・関西大学）特別セッション『自然災害伝承碑による地域災害の応用地質とアウトリーチ』にて、九州災害碑WGより発表1件。
- 2022年11月17日：令和4年度九州支部研究発表会（福岡）特別セッション『九州の自然災害伝承碑とアウトリーチ』にて、災害碑に関わる発表5件。
- 2023年11月2日：令和5年度九州支部研究発表会（福岡）災害碑に関わる発表1件。
- 2023年11月21～22日：先進建設・防災・減災技術フェア（熊本・グランメッセ）九州支部としてテーマ「災害碑が語る災害履歴と未来への伝承」として出展。熊本県の災害碑について3件の講演。
- 2024年度にてWG活動第1期完了予定。



▲ 2023先進建設・防災・減災技術フェアの出展と講演（熊本・グランメッセ）

3. 九州の自然災害伝承碑

▼九州における災害碑マップ

(緑：地理院登録232基, 赤：地理院未登録102基)
国土地理院HP公開GeoJSON形式の地理院マップシートを利用して作成¹⁾

2024年7月時点
九州災害碑WGにて
合計**334基**の災害碑を確認

2024年 7月25日時点
九州334基

地理院地図登録 **232基** + WG調査 (地理院地図未登録) **102基**

九州WG活動開始の
2022年から約2年間で
+212基の増加



2023年
九州221基
九州WG活動中

2022年
九州122基
九州WG活動開始時期

2019年3月
地図記号
「自然災害伝承碑」
制定

2022年10月20日時点
(地理院地図登録数)
九州120基

2023年10月26日時点
(地理院地図登録数)
九州211基

2024年7月25日時点
(地理院地図登録数)
九州232基

▼九州における自然災害伝承碑 集計

県名	2022年 全数 (基)	約2年間での 増加数 (基)	2024年災害碑 (基)			各災害種別の災害碑 (基)						
			2024年 全数	地理院登録数 2024.7.25	地理院 未登録数	土砂災害	洪水	高潮	地震	津波	火山	その他
福岡	16	+5	21	21	0	7	15	0	3	0	0	0
佐賀	19	+66	85	41	44	15	59	9	1	0	0	8
長崎	27	+0	27	27	0	22	10	0	0	13	3	0
熊本	14	⇒ +75 ⇒	89	72	17	25	21	11	23	30	0	0
大分	9	+17	26	21	5	10	15	2	2	2	0	5
宮崎	9	+27	36	13	23	3	19	0	7	6	3	2
鹿児島	22	+20	42	29	13	9	14	0	2	0	23	0
沖縄	6	+2	8	8	0	0	0	1	3	6	1	1
計	122	+212	334	232	102	91	153	23	41	57	30	16

- ・ 1つの碑が、「洪水・土砂災害」のように、2つ以上の災害カテゴリーにまたがることもあり、右のカテゴリーの合計と、左の全件数とは一致しない。
- ・ 国土地理院登録232基（令和6年（2024）7月25日時点）と未登録102基について、集計を行った。
- ・ 佐賀県の地理院未登録44基は、佐賀県防災士会（2015）より引用した。2)
- ・ 熊本県の地理院未登録17基は、熊本地震や九州北部豪雨の災害復旧事業竣工碑や震災遺構が多い。熊本大学（2022）「熊本地震の痕跡からの学び」からも引用した。3)
- ・ 大分県の地理院未登録5基は、大分県災害データアーカイブ（地理院地図と連携）の災害伝承碑を引用した。4)
- ・ 宮崎県の地理院未登録23基は、大平（2019）より引用した。5)
- ・ 鹿児島県の地理院未登録29基は、岩松・橋村（2014）「桜島大噴火記念碑」より引用した。6)

洪水・土砂災害

洪水は、153基（最大）
土砂災害は、91基と多い。

S47天草大水害



地理院地図登録済

土石流

昭和47年天草大水害
水害復興の碑
(熊本県天草市倉岳町)
発災：1972（昭和47）年7月6日

H24九州北部豪雨



地理院地図未登録

土石流

平成24年九州北部豪雨
感謝と追悼の碑
(熊本県阿蘇市一の宮町)
発災：2012（平成24）年7月12日

洪水・浸水

昭和28年西日本水害時
直方市植木地区の堤防決壊
九州大学附属図書館HP

S28西日本水害

昭和28年西日本水害 復興記念碑（福岡県直方市植木）
発災：1953（昭和28）年6月25～30日 調査票：西日本技術開発・井柳

S32諫早大水害 洪水・浸水

水害直後の眼鏡橋付近の様子
(九州支部30周年記念誌を引用)

諫早大水害 復興記念碑（長崎県諫早市）
発災：1957（昭和32）年7月25日 調査票：カミナガ・矢田

約250年前の土砂災害



地理院地図未登録

250年後の令和2年浸水被害

深層崩壊

瀬戸石崩れ 全景
球磨川対岸より望む

瀬戸石崩れの碑（石碑：熊本県八代市）

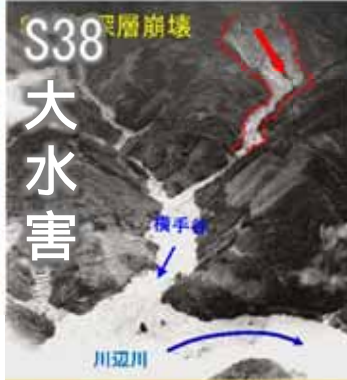
発災：1755（宝暦5）年6月9日 調査票：アバンス・梅崎
災害碑から約20km上流側に位置し、深層崩壊および天然ダムが発生、欠壊

洪水・土砂災害

川辺川ダム建設の契機 土石流・深層崩壊



地質学地質学専攻



令和2年7月豪雨時
川辺川ダム砂防事務所

横手谷 災害復興記念碑
(熊本県球磨郡五木村)
発災：1963(昭和38)年8月17日

調査票：アバンス・梅崎

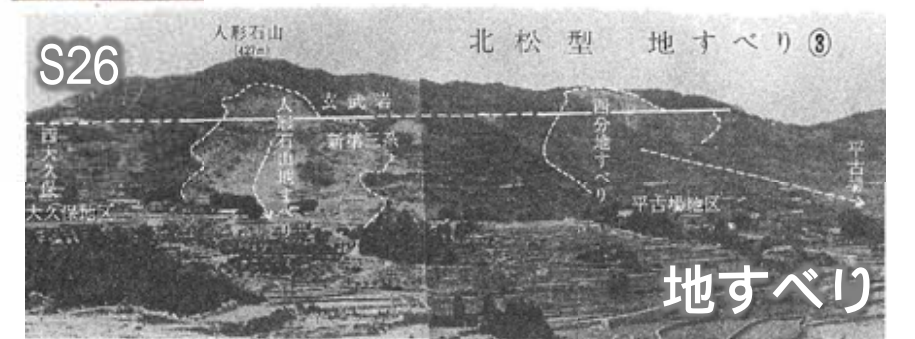
S38災害を契機に昭和41年に川辺川ダム建設計画が発表。一度中止となったが、**令和2年7月豪雨により川辺川ダム建設が再び進められている。**

2020(令和2)年7月豪雨
(熊本県人吉・球磨地方)
復旧・復興中
今後竣工や慰霊碑が増える

北松型地すべり 命名



地質学地質学専攻



地質ニュースN0.181(昭和44年9月)に掲載された人形石山地すべりと西分地すべり(引用)

西分(にしぶん)地すべり復旧碑(佐賀県山代町)

発災：1951(昭和26)年2月16日

調査票：藤永地建・山田

地すべり対策のため、この地域の地すべり発生機構の研究が進められ、第三紀層とキャップロックという地質構造と地すべり発生機構に対し、野田(1957)により『**北松型地すべり**』と命名された。

また、これら北松地域での地すべり災害をはじめ全国において発生した地すべり災害を契機に、**1958(昭和33)年に『地すべり等防止法』(法律第30号)が制定**された。

高潮

高潮の災害碑は、23基ある。



鎮魂の碑



台風による高潮に襲われた不知火町松合地区
国土交通省九州地方整備局HPより
https://www.qsr.mlit.go.jp/bousai/index_c18.html



高潮痕跡高



台風18号松合地区 災害碑 (熊本県宇城市不知火町)
発災：1999 (平成11) 年9月29日 調査票：アバンス・梅崎

地震

地震の災害碑は、41基ある。

2005 (H17) 福岡西方沖地震



復興記念碑
(モニュメント)



復興記念碑
(地震時に崩壊した鳥居)



被災直後の玄界島の住宅地全景

福岡県西方沖地震復興記念碑 (福岡県西区玄海島)
発災：2005 (平成17) 年3月20 調査票：ジオテック技術士事務所・矢野

地震

2016 (H28) 熊本地震 2016 (平成28) 年4月14日・16日

地震のなかでも「熊本地震」の災害碑は、23基ある。
復旧・復興が進み多くの災害碑が設置された



同地点の被災直後
(H28熊本地震) H28.4.22撮影



数鹿流崩れ災害碑
(熊本県南阿蘇村立野)



災害碑慰霊碑
(熊本県南阿蘇村立野)



復旧碑 (熊本県西原村)
2016 (平成28) 年4月14日・16日



災害碑慰霊碑 (熊本県南阿蘇村立野)
2016 (平成28) 年4月14日・16日



災害碑慰霊碑 (熊本県南阿蘇村立野)
2016 (平成28) 年4月14日・16日

地震

2016 (H28) 熊本地震

2016 (平成28) 年4月14日・16日

災害を伝承する「震災遺構」

- 地表地震断層 -



同地点の被災直後
活断層 (国土地理院公開)



旧阿蘇大橋左岸側に出現した
活断層の震災遺構



R3 (2021) 年豪雨崩壊



R5 (2023) 年災害復旧後

国指定天然記念物



「布田川断層帯 (1)」
活断層 (益城町堂園)



地理院地図
国指定天然記念物

国指定天然記念物



「布田川断層帯 (2)」
活断層 (益城町福原)

国指定天然記念物



「布田川断層帯 (3)」
活断層 (益城町杉堂の潮井神社)

地震

明治22年熊本地震と平成28年熊本地震を伝承する災害碑



Q 地理院地図未登録

奇跡の夫婦石（熊本県熊本市西区上松尾）
「熊本地震の痕跡からの学び」より(執筆担当：徳島大学西山賢一)

平成28年熊本地震
神社倒壊・復興記念碑



Q 地理院地図未登録

明治22年熊本地震再建と
刻まれる鳥居

菅原神社（熊本県御船町高木） 調査票：アバンス・梅崎



- ✓ 平成28年熊本地震の災害碑：布田川・日奈久断層上に位置
 - ✓ 明治22年熊本地震（●）：ほぼ立田山断層上に位置
- 菅原神社の鳥居の災害碑は、日奈久断層上に位置**

津波

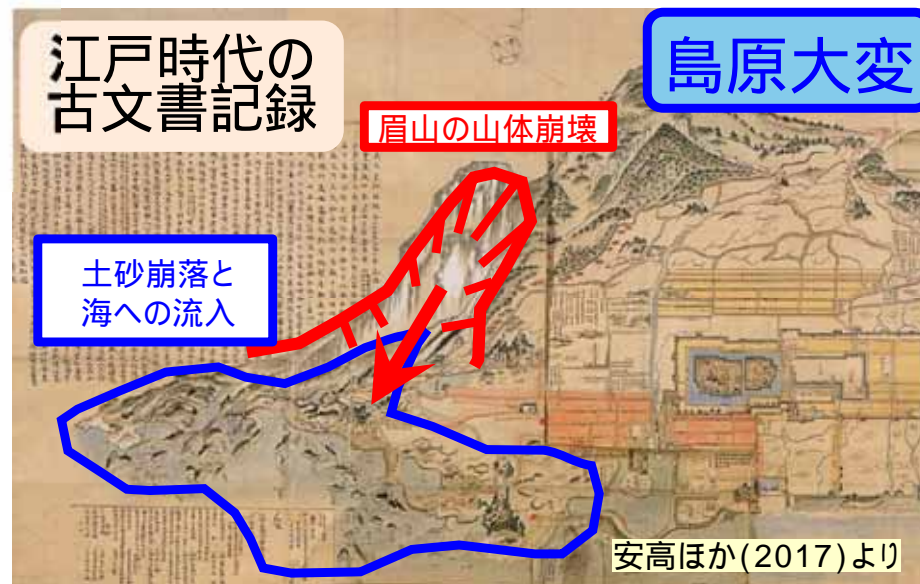
1972年島原大変肥後迷惑

「島原大変肥後迷惑」による津波の災害碑は、43基ある。



慰霊碑（熊本県熊本市～玉名市～宇土市） 調査票：サンコーコンサルタント・松崎
発災：1972（寛政4）年 雲仙普賢岳眉山の大崩壊

津波の死者：島原10,000人，熊本5,000人



▲ 2023先進建設・防災・減災技術フェア講演資料より 12
(サンコーコンサルタント松崎氏作成資料を引用)

火山

火山の災害碑は、30基ある。長崎県の平成3年雲仙普賢岳噴火などがある。

災害復興伝承マップ（看板）を設置（雲仙岳災害記念館玄関前）2023年12月



**地理院地図
未登録 17基
(未集計)**

このマップの
伝承碑20基のうち、
地理院地図登録は
3基のみ。

(集計表には未反映)

火山

桜島の安永噴火（1779），大正噴火（1914年1月12日）が23基ある。



▲ 九州における災害碑マップ

1914年大正噴火

住民ハ理論ニ信頼セス

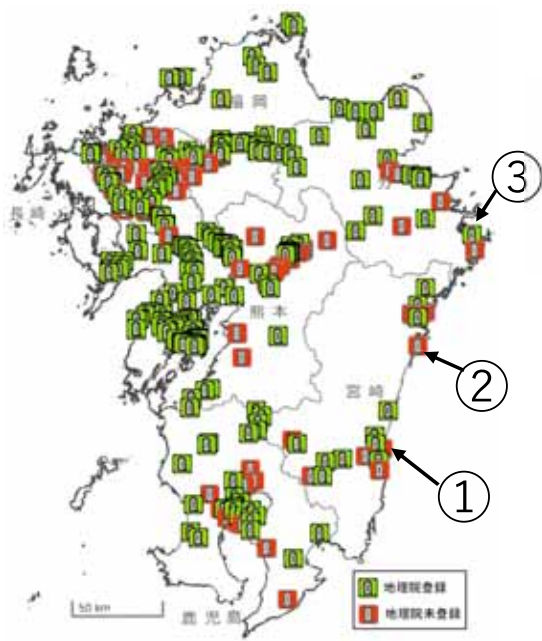
大正3年(1914)1月の爆発は安永8年(1779)以来の大惨禍で全島が猛火に包まれた。噴火数日前から普段と異なる現象が生じ、村長は測候所に判定を求めたが「噴火なし」との答えだった。測候所、つまり科学技術を信頼して島に残っていた人々は、突然の噴火に虚をつかれ、犠牲者が続出した。島の人々は、測候所の背信を呪い、科学技術の頼りなさを糾弾する碑文を後世に残すように石に刻みつけた。（「復刻桜島噴火記 住民ハ理論ニ信頼セス・・・（2014）」）

桜島爆発記念碑（鹿児島市東桜島小学校内）
1914（大正3）年1月12日噴火

調査票：アバンス・梅崎

津波

地震による津波の災害碑
14基ある。



1662年外所地震

約 350 年前に、西海大地震に襲われ周辺の神社は津波被害に遭ったが、その時当神社に一匹の白兎が現れ、津波を蹴って救ったと伝えられ、災害からの「守り神」とあがめられてきた



白兎の彫刻
一葉稻荷神社
(宮崎市新別府)
(1662年外所地震
(日向灘地震))

1854年安政南海地震 高さ1mの津波

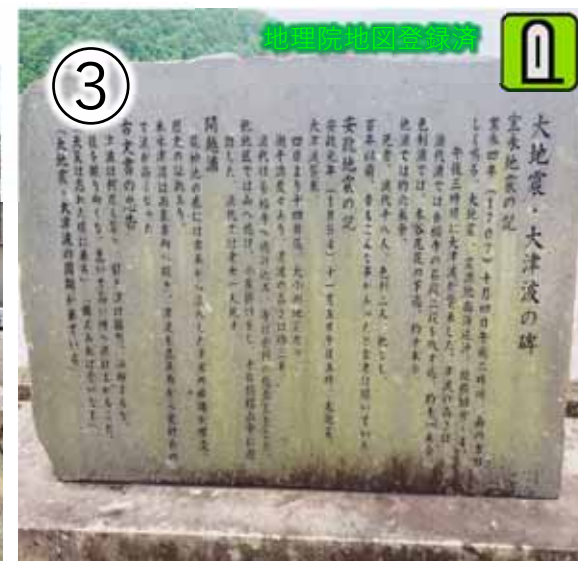
石碑の台座の高さは、安政元年（嘉永七年）十一月五日（1854年 12月 24日）に襲来した安政南海地震津波の高さに合わせて作られていた細島町舎の石垣の高さになっている



細島道路元標
(宮崎県日向市細島)
安政南海地震(1854年12月)

調査票：アバンス・梅崎

1707年宝永地震 高さ11mの津波 1854年安政南海地震 高さ3mの津波



大地震・大津波の碑
(大分県佐伯市米水津)
宝永地震(1707年10月)
安政南海地震(1854年12月)

調査票：日本理大学・池見研究室

とんところ

外所地震災害碑と令和6年日向灘地震

令和6（2024）年8月8日の宮崎県日向灘でのM7.1の地震が発生し、初めて南海トラフ臨時情報「巨大地震注意」が発令された。その日向灘地震の碑として寛文大地震（外所地震）（1662年10月31日）の碑が4基ある。そのうちの一つは、50年ごとに碑を追加する伝承碑がある。



▲ 日向灘地震の震源

「50年に1回、新たに建立」



外所地震（1662）災害碑 今回iPad ProのLIDARカメラを利用し作成した3Dデータ



津波

とんところ 外所地震災害碑

外所（殿所）村で1 mほど地盤が陥没。そこへ地震に伴う津波により海水が流れ込み、青島と並んで南にあったという外所村は海に沈んだ。外所という地震の名称は海没した村の名前に因む

干拓に尽力
杉田新佐衛門の石碑



地理院地図未登録

7つの供養碑



地理院地図未登録



現在の地形図（2023年）



元禄国絵図 日向国（1696年）

現在の清武川と加江田川河口付近の航空写真（宮崎市提供写真）
「災害伝承命を守る地域の知恵（2014）古今書店」より

南海トラフ地震では津波が来る可能性

外所地震（1662）災害碑から考える

「50年に1回、新たに建立！」

石碑の状態は、約50年前までは碑文が解読できる。

- ✓ 100～200年以上前に刻まれた碑文は文字も消え、
- ✓ その文字の内容の解読は難しい。
- ✓ さらに200年以上前になると石碑が倒壊しているものもある。

→ **「災害教訓の伝承方法」が課題**



4. おわりに

1662年外所地震 (約350年前) 「50年に1回、新たに建立」

① 災害の多い九州では、災害碑は多い。
災害伝承の意識が高い。

② またその調査や研究も多い。

③ 地理院地図の未登録の碑も多い。
さらなる掘り起こしが必要。

③ 200年以上前になると石碑が倒壊、
碑文が読めない状態になる。

「災害教訓の伝承方法」が課題



「デジタルアーカイブ
として残す」

